

平成 24 年度  
事業報告

自 平成 24 年 4 月 1 日  
至 平成 25 年 3 月 31 日

公益財団法人  
中山隼雄科学技術文化財団

# 事業報告

〔平成24年4月1日から  
平成25年3月31日まで〕

## 1 当法人の現況に関する事項

### (1) 事業の経過及びその成果

当法人は、「人間と遊び」という視点に立った科学技術の振興に関する事業を行い、ゆとりと活力のある社会の構築に貢献することを目的としております。

当事業年度は、この公益目的に適う調査・研究・開発の推進及びこれらの助成、国際交流の助成並びに普及啓発という4分野において、積極的に事業に取り組んでまいりました。

この結果、総事業費は70,290千円(対前年度94.7%)、公益目的事業費は62,342千円(対前年度94.2%)、法人管理費は7,947千円(対前年度99.3%)となりました。

一方、収益面につきましては、基本財産の株式配当が前年度と同一水準で維持され、公益目的事業基金及び法人管理活動基金につきましても、金融情勢が厳しい中、安全性に配慮しつつ積極的な運用に努めた結果、経常収益は129,994千円(対前年284.0%)、経常増額は233,676千円(対前年度169.7%)、正味財産期末残高は3,485,893千円(対前年107.2%)となりました。

主要事業別の経過及びその成果は、次のとおりであります。

#### ① 調査、研究及び開発の推進

調査、研究及び開発の推進は、定款第4条第1項第1号の目的である「財団自らが能動的に解決又は実現を図るべきと思料する課題」に関する事業であり、公益法人認定の前後では実施方法が異なっております。

##### i 平成23年度事業の実施

平成23年度までは、当法人が「調査研究」と銘打って自ら推進する研究であり、事務局の委託を受けた学識経験者並びに評議員及び理事の一部で構成する企画懇談会の提案を受けて、理事会が研究課題を決定して

きたものであります。

平成 23 年度の調査研究は、このようにして平成 22 年度に引き続き「オンラインゲームの教育利用における課題と対策に関する調査研究」を研究課題として、東京大学大学院情報学環 馬場 章教授に委託して本年度実施いたしました。その研究成果は、「デジタルゲームの教育目的利用研究」として結実しており、今後広くこの研究成果を広報し、各界の利用を促進していくこととしております。

## ii 平成 24 年度事業の推進

本年度からは、公益財団の認定を受けて公平性と透明性をより高めるため平成 23 年 10 月 1 日付で新設した「企画委員会」において、定款第 4 条第 1 項第 1 号の目的に合致し、かつ、現在最も対応が必要で急がれる課題を抽出して「特別研究課題」を作成し、7 月中に全国の大学、高専、国公立研究機関等 356 組織に募集案内を送付いたしました。

この特別研究課題の狙いのポイントは、「みんなの知恵を結集し、社会の課題に挑戦する新しいゲームの創生に向けて」ゲームの面白さや手法を使って、いろいろな分野、年齢の人々が、ゲームを楽しみながら、みんなの知恵と力を結集し、社会的問題の解決に取り組んだり、社会的に有益な価値を創造したりするような新しいゲームの創生に挑戦する研究の提案と実施でありました。

その結果、8 組の応募がありましたが、先ず企画委員会において研究課題との親和性を先議して 4 名に絞り込み、これを外部の学識経験者からなる 10 名の選考委員が事前審査及び本審査により決定した次表の 2 テーマを理事会に答申し、最終的にこれを受けた理事会が 10 月 22 日付で平成 24 年度 調査研究として採択することを承認、各採択者との間に研究委託契約を締結のうえ研究費合計 10,000 千円を提供いたしました。

但し、研究期間及び研究費は、第 1 年度のみ決定とし、第 2 年度は、選考委員会に継続の可否を中間審査させ、可とした場合にはその金額を答申させたいうで、平成 25 年度予算として決定することとしております。

| 研究テーマ                       | 研究体制   | 研究費(千円) |
|-----------------------------|--|---------|
| 地域電気マネーによるソーシャルな節電行動の具現化ゲーム | 共同研究<br>研究代表者 岡田仁志<br>国立情報学研究所<br>情報社会相関研究系准教授 | 7,000   |

|   |  |       |
|---|--|-------|
| 社会モデルプラットフォーム「エコロ図」のプロトタイプ制作と運営による創発の研究 | 共同研究<br>研究代表者 渡辺修司<br>立命館大学<br>映像学部准教授 | 3,000 |
|---|--|-------|

## ② 調査、研究及び開発の助成

調査、研究及び開発の助成には、先ず、定款第4条第2号の目的である「第三者が行う不特定多数の利益となる課題」に対するものがあり、目的別に助成研究A「ゲームの分野の研究に対する助成」と助成研究B「人間と遊び」に関する研究に対する助成」に分類しております。次に、定款第4条第3号の目的の内「ゲームに関する国際会議の開催または参加に対する助成」があります。

### i 平成23年度事業の実施

平成23年度事業として実施された助成は次表のとおりであり、それぞれ当年度中順調に研究等が進捗しております。但し、国際交流・開催に関する菱山玲子氏に対する助成は、主催学会のACM（米国計算機科学会）が、震災と放射能汚染の影響で開催地を米国に変更するため実施できず、助成金返上の意向が示されました。

| 事業別       | 件数 | 金額（千円） | 備考            |
|-----------|----|--------|---------------|
| 調査研究計     | 1  | 0      | 平成22年度からの継続研究 |
| 助成研究A（新規） | 16 | 17,370 |               |
| 同（継続）     | 6  | 9,450  |               |
| 助成研究B     | 13 | 10,180 |               |
| 国際交流      | 2  | 1,000  | うち1件は助成金返上の予定 |
| 助成研究計     | 37 | 38,000 |               |
| 事業合計      | 38 | 38,000 |               |

### ii 平成24年度事業の推進

#### A：助成研究A

##### (A) 平成23年度・中間評価と助成

平成23年度に、助成研究Aとして採択したものの内複数年度にわたる

3 課題について、選考委員会が中間評価を行い答申した内容に従い、10 月 22 日付で理事会決議をもって次表のとおり決定し、助成金合計 2,000 千円を提供して第 2 年度の助成を継続いたしました。

| 研究テーマ                            | 対象者・所属等     | 助成額（千円） |
|----------------------------------|-------------|---------|
| 劇場型対戦ゲームによる線形代数導入教育の実践的研究        | 西澤一<br>豊田高専 | 500     |
| 臭覚・触覚を用いることによるネットワーク型ゲームの臨場感向上研究 | 石橋豊<br>名工大  | 500     |
| 日常生活を楽しくする環境埋込型フィジカルコントローラに関する研究 | 平井重行<br>京産大 | 1,000   |

#### (B) 平成 24 年度・新規助成

重点研究と基礎的・基盤的研究に分類して募集いたしました。

##### ④ 重点研究「社会支援系シリアスゲーム&ゲーミフィケーション」

近年、諸外国では、ゲームの面白さや機能を活用して社会的な諸活動の効果効率を上げることを目的とする、いわゆるシリアスゲームが進展しつつあります。また、ゲームのスコアのつけ方、報酬の獲得方法等ゲームで使われる手法を産業や社会に取りこんで効果や効率を上げる、いわゆるゲーミフィケーション行われるようになってきています。わが国においても今後のゲームの発展と社会の発展の双方にわたって重要な領域であり、この面の開発力の強化が必要となっています。

そこで、今年度は、特に災害被災者支援、子育て支援、高齢者支援、医療福祉など社会的に支援が重要とされる領域において、新しいゲームコンセプトの創出に資するようなシリアスゲームに重点を置いて募集することといたしました。

##### ⑤ 基礎的・基盤的研究

ゲームに関するハードの試作・実験、ソフトの制作・検証等を含む調査、研究及び開発（ゲームの実証的制作を含む）の基礎的・基盤的研究についても従来通り助成を続けることといたしました。

7 月中に全国の大学、高専、国公立研究機関等 356 組織に募集案内を送付いたしました。

63組の応募があり、選考委員が事前審査及び本審査により決定した次表の14課題に対して助成することを理事会に答申し、これを受けた理事会が1月21日付で答申通り平成24年度助成研究Aとして採択し、各採択者に対して、助成金合計19,540千円を提供いたしました。

但し、研究期間及び研究費は、第1年度のみ決定とし、第2年度は、選考委員会に継続の可否を中間審査させ、可とした場合にはその金額を答申させたくえで、平成25年度予算として決定することとしております。

| 研究テーマ   | 対象者・所属等                           | 金額(千円) |
|---|-----------------------------------|--------|
| スマートフォンによる環境音認識のためのソーシャルゲームを用いた学習用環境音データ収集機構の実現           | 前川 卓也<br>大阪大学<br>大学院准教授           | 1,180  |
| 拡張現実感を用いて発災時の判断力を育成する次世代型避難訓練の開発と実施                       | 光原 弘幸<br>徳島大学<br>大学院講師            | 2,400  |
| バーチャル迷路ゲームを用いた発達障害児・者の空間認知能力の解明                           | 渡邊 洋<br>産業技術総合研究所<br>主任研究員        | 1,760  |
| Substitutional Reality (SR: 代替現実)技術を用いた、新しいゲームインターフェイスの開発 | 藤井 直敬<br>理化学研究所総合研究<br>C. チームリーダー | 3,600  |
| ペーパークラフト工作を取り入れた造形教育を支援するゲームシステムの開発                       | 鈴木 浩<br>神奈川工科大学<br>情報メディア学科助教     | 1,150  |
| 脳・自律神経系活動の複数プレイヤー同時計測による協調型ゲームの「場」の解析                     | 嶋田 総太郎<br>明治大学<br>理工学部准教授         | 2,030  |
| 最先端研究推進におけるゲーミフィケーションの可能性                                 | 根本 香絵<br>国立情報学研究所<br>教授           | 1,000  |
| 冷温感触覚呈示できるインタラクティブ絵本のシステム開発                               | 串山 久美子<br>首都大学東京<br>教授            | 700    |
| オープンソースハードウェアを用い  | 長野 祐一郎                            | 690    |

|  |                             |       |
|--|-----------------------------|-------|
| た生理指標多人数計測による「楽しさ」評価システムの開発              | 文京学院大学<br>人間学部助教            |       |
| 法専門家活用能力の増進をはかる戦略的法ゲームの開発                | 久保山 力也<br>青山学院大学<br>大学院兼任講師 | 500   |
| 発達障害児における社会的スキルゲームによる対人関係の改善             | 井上 菜穂<br>鳥取大学<br>大学院臨床心理士   | 2,000 |
| ゲーミフィケーションを用いたソフトウェアテストに取り組む意欲を高める枠組みの構築 | 坂本 一憲<br>早稲田大学<br>基幹理工学部助手  | 500   |
| 触地図上の宝探しゲームによる中途失明者の自律移動支援用具に対する親和性の向上   | 喜多 伸一<br>神戸大学<br>大学院教授      | 1,330 |
| ARG のまちづくり・社会支援への応用に関する基礎研究              | 中村 仁<br>東京大学<br>大学院講師       | 700   |

## B：助成研究 B

募集テーマに関しては、「遊びの本質及び影響に関する研究」、「遊びに関する新しい概念やツールに関する研究」「遊びの社会的諸活動への応用に関する研究」その他研究助成 A のカテゴリーに属するもの以外の「人間と遊び」に係わる研究全般としました。

37 組の応募がありましたが、助成研究 A とまったく同一の手続きを経て、次の 8 課題を採択し、助成金合計 5,160 千円を提供いたしました。助成研究 B の研究期間は、単年度のみであります。

| 研究テーマ                            | 氏名・所属等                      | 金額(千円) |
|----------------------------------|-----------------------------|--------|
| 身体意識向上のための全方位対応弓型インターフェースデバイスの開発 | 安本 匡佑<br>東京工科大学<br>メディア学部助教 | 600    |
| Kinect を利用した遊びを通しての子どもバランス能力評価   | 進矢 正宏<br>東京大学<br>特別研究員 (PD) | 430    |
| 聴覚的リズムと視覚的リズムの交錯                 | 中川 隆                        | 760    |

|                                     |  |     |
|-------------------------------------|--|-----|
| による新しい認知の形式                         | 東京芸術大学<br>大学院専門研究員                     |     |
| 歯磨き音変調による歯磨きの印象修飾とモチベーション向上         | 梶本 裕之<br>電気通信大学<br>准教授                 | 900 |
| トレイグジスタンスでイルカと遊ぶ、クジラを知る             | 妻木 勇一<br>山形大学<br>教授                    | 500 |
| 錯視ブロック遊びを通じた科学的思考の育成ワークショッププログラムの開発 | 大谷 智子<br>東京大学<br>特任助教                  | 770 |
| 音楽の綱引き                              | 山田 真由美<br>京都大学<br>こころの未来研究 C.<br>連携研究員 | 900 |
| チンパンジーの遊びに「遊び心」の起源を探る               | 齋藤 亜矢<br>京都大学<br>野生動物研究 C.<br>特定助教     | 300 |

### C：国際交流の助成

#### (A) 国際交流の助成・開催

具体的に発表等の予定がある等、応募者が主体的な役割を持つもので、かつ、平成 25 歴年中に開催されるものに限って募集いたしました。3 組の応募がありましたが、助成研究 A 及び B の本審査以降とまったく同一の手続きを経て、次の 2 課題を採択し、助成金合計 1,120 千円を提供いたしました。

| 会議等の名称・主催機関  | 氏名・所属等                     | 金額（千円） |
|--|----------------------------|--------|
| 第 21 回国際学生対抗バーチャルリアリティコンテスト (IVRC2012)<br>特定非営利活動法人 日本バーチャルリアリティ学会 | 野嶋 琢也<br>電気通信大学<br>大学院 准教授 | 420    |

|  |                              |     |
|--|------------------------------|-----|
| 立命館大学・アルバータ大学共同によるゲームスタディーズ国際カンファレンス<br>立命館大学ゲーム研究センター(RCGS) | 上村 雅之<br>立命館大学<br>ゲーム研究センター長 | 700 |
|--|------------------------------|-----|

(B) 国際交流助成・参加

1組の応募がありましたが、審査に合格したものではありませんでした。

③ 普及啓発

普及啓発は、定款第4条第1項第4号の目的に関する事業であり、当財団が自ら主体的に行う「調査研究」及び当財団が助成して研究者が行う「助成研究」の成果を、広く一般に公開しその普及を促進する事業であります。

i 研究成果の発表会

平成22年度調査研究及び助成研究の成果を第19回研究成果発表会として、10月10日に外部会場において終日開催いたしました。発表者は、当該年度の研究従事者32名中29名に上り、全国から参集して熱心に発表しました。研究別内訳は、調査研究：1名、助成研究A：14名、助成研究B：14名であります。各発表者は、口頭発表の他ポスター発表も実施し、来場者は約100名と盛況でした。

発表会終了後は、立食形式で交流会を実施し、研究者相互のみならず多様な参加者が有意義な交流を行いました。

ii ウェブサイト等での研究成果の開示

これらの研究成果は、研究報告書とは別にその概要を冊子として作成し、関係者に頒布すると共に当法人のウェブサイト上にも収載し、一般の利用の便を図りました。

iii 20周年記念誌の発行

当法人が平成4年7月21日に内閣総理大臣の許可を受け「財団法人中山隼雄科学技術文化財団」として設立されてから20年が経過したことを記念して、「設立20周年記念誌」を発行し、広く全国の大学、研究機関、研究者等に頒布しました。

従来は、ともしれば研究者のみを対象とする親しみ難い内容でしたが、

可能な限り一般にもなじみ易いよう、内容の質を維持しつつ平易にするよう工夫しました。

単位：千円

| 事業別         | 件数 | 予算額    | 決算額    | 達成率(%) |
|-------------|----|--------|--------|--------|
| 調査研究計       | 2  | 10,000 | 10,000 | 100.0  |
| 助成研究 A (新規) | 14 | —      | 19,540 | —      |
| 同 (継続)      | 3  | —      | 2,000  | —      |
| 助成研究 B      | 8  | —      | 5,160  | —      |
| 国際交流        | 2  | —      | 1,120  | —      |
| 助成研究計       | 27 | 38,000 | 27,820 | 73.2   |
| 普及啓発        | —  | 2,500  | 1,517  | 60.7   |
| 事業合計        | 29 | 50,500 | 39,337 | 78.8   |

(注) 上記には、20周年記念誌の発行に要した経費 1,560 千円を含んでおりません。

## (2) 資金調達等の状況

①資金調達：当期の資金調達はありません。

②設備投資：当期の重要な設備投資はありません。

## (3) 直前事業年度の財産及び損益の状況

| 区分       | 平成 23 年度  | 平成 24 年度  |
|----------|-----------|-----------|
| 経常収益     | 45,775    | 129,994   |
| 評価損益等調整前 | △28,436   | 59,704    |
| 当期経常増減額  | 137,684   | 233,676   |
| 正味財産期末残高 | 3,252,217 | 3,485,893 |

(注) 平成 23 年度は、公益財団法人の認定を受けた平成 23 年 7 月 1 日から平成 24 年 3 月 31 日までの 9 か月決算であります。

## (4) 対処すべき課題

① 基本方針

公益財団法人として再発足してから第2事業年度を経過し、様々な問題点が明確になってきつつあるので、改めて公益財団の基本思想を確認して日常活動に徹底すると共に、合理的な範囲での柔軟化を図り、当法人の目的を高い水準で達成するため、次の諸課題に対処してまいります。

i 公益法人としてのガバナンスの徹底

定款第35条第2項第5号に定める「内部統制制度」に関する規定等を整備し自己点検することにより、公益法人の原点に立ち返った事業運営を徹底いたします。

ii 事業活動の規模に関する戦略

本法人の事業活動の規模は、運用益の範囲を原則とし、基本財産及び基金の取り崩しは厳に慎みます。

又、資産の半ばを構成する株式の配当の変動に備えて、1年程度の事業活動に必要な資産を構築していく必要があります。このため、「資産の運用管理に関する規定」を改定し、資産の安定的かつ機動的な運用に努めてまいります。

② 公益目的事業

当法人の公益目的事業は、調査、研究、開発の推進及びこれらの助成、国際交流の助成並びに普及啓発の4分野であります。そのすべてが「人間と遊び」という視点に立った科学技術の振興に関する事業であるため、相互に有機的に関連付けられ、支え合って効果を増大させる必要があります。特に事業資金に限りがある中では、より有為な資金の使用方法について、ますます工夫が必要となります。

i 調査研究事業

現在わが国には、多くの解決すべき社会問題が存在しておりますが、社会的に重要かつ喫緊の課題であって、「ゲームを用いて、社会の問題を解決する。」ことが可能な研究課題をさらに深耕していくこととしております。当法人自らが決定し、研究従事者を募集する事業でありますので、その任に当たる「企画委員会」の活動が成功の重要なカギを握ることになります。

ii 助成研究事業

当法人の中核的事業であり、広く各層の研究者から助成を期待されているので、公平・公正な審査を通じて、適切な審査活動を行うことが重要であります。そのため、学識経験者 10 名による匿名の「選考委員会」の自律的な活動を保証することに意を用いてまいります。

なお、限りある資金を生かすために、調査研究、助成研究及び国際交流の各事業に関しては、事業予算の基準値に上下 40% の範囲で上限値と下限値を設け、相対的により有為な研究に資金を提供できるよう、弾力的な配分を試みる必要があります。

### iii 普及事業

当法人は、設立以来毎年「研究成果発表会」を開催し、調査研究と助成研究の研究者にその成果報告書をご提出いただき編集して提供すると共に、これを発表する場も提供してまいりました。しかし、これらの措置だけでは、折角の研究成果が広く一般に周知され、啓発効果をもたらすには不十分でありますので、今後は当法人のウェブサイトを更新して公開し、研究成果の概要を年報として発行するなど、より普及のための努力が肝要であります。

## ③ 法人管理事業

当法人の常勤者は 2 名と僅少でありますので、公益目的事業の遂行に手いっぱい、管理業務が十分に行き届かなかった側面があります。従って今後は、優先順位を明確にしたうえで業務の合理化を徹底し、以下の課題に取り組む必要があります。特に、重要性の高い会計業務は公益財団会計に習熟した会計法人を起用して、正確な処理を図って参ります。

- i 広報の拡大による公益活動の周知と評価の獲得
- ii ウェブサイトの抜本的更新による普及啓発等の促進
- iii 文書管理ルール具体化による業務効率の向上
- iv 財務データの早期把握と開示による対予算実績管理の徹底

## ④ 資金運用

当法人は事業活動資金のほぼ全額を基本財産等の資産運用益により賄っておりますが、そのほぼ半額は所有株式の配当収入であります。過去

に数年間無配が継続し、法人存続の危機を経験しておりますので、そのような不測の事態に備え、以下の課題に取り組むこと等により、1年間の事業活動費を賄える程度の内部留保に努める必要があります。他方、中期的な課題としては、寄付金の獲得にも注力する必要があります。

- i 資金運用に関する財産別基本戦略の明確化
- ii 資金運用規定の改定による弾力的かつ安全な資金運用

#### (4) 主要な事業内容

| 事業     | 主要な事業の内容                                  |
|--------|---|
| 調査研究事業 | 「人間と遊び」という視点に立った科学技術に関する調査、研究及び開発の推進      |
| 助成事業   | 「人間と遊び」という視点に立った科学技術に関する調査、研究及び開発に対する次の助成 |
|        | 助成研究 A： ゲームの分野の研究                         |
|        | 助成研究 B： 「人間と遊び」一般に関する研究                   |
|        | 国際交流： ゲームに関する国際会議の開催又は参加                  |
| 普及事業   | 「人間と遊び」という視点に立った科学技術に関する普及啓発              |

#### (5) 主たる事務所の状況

名称： 公益財団法人 中山隼雄科学技術文化財団  
 所在地： 東京都中央区銀座三丁目 15 番 8 号 銀座プラザビル 6 階

#### (6) 主要な借入先及び借入額

該当事項はありません。

#### (7) 重要な契約に関する事項

| 契約名    | 相手方           | 契約の概要   |
|--------|---------------|---|
| 賃貸借契約書 | (株)アミューズキャピタル | 目的：財団事務所の賃借<br>金額：賃料：262（敷金：2,400）千円<br>期間：平成 23 年 3 月 6 日～平成 27 年 3 月 31 日 |
| 研究     | 東京大学大学院       | 目的：オンラインゲームの教育利用における課題と   |

|               |                   |  |
|---------------|-------------------|--|
| 契約書           |                   | 対策に関する調査研究委託<br>金額：研究費として 10,000 千円<br>期間：平成 23 年 10 月 1 日～平成 24 年 9 月 30 日                                      |
| 調査研究<br>委託契約書 | (共)情報システム<br>研究機構 | 目的：地域電気マナーによるソーシャルな節電行動<br>の具現化の調査研究委託<br>金額：研究費として 7,000 千円<br>期間：平成 24 年 11 月 1 日～平成 26 年 9 月 30 日             |
| 調査研究<br>委託契約書 | 立命館大学<br>衣笠総合研究機構 | 目的：社会モデルプラットフォーム「エコロ図」のプロトタイプ制<br>作と運営による創発の調査研究委託<br>金額：研究費として 3,000 千円<br>期間：平成 24 年 11 月 1 日～平成 26 年 9 月 30 日 |

## (8) 会員に関する事項

該当事項はありません。

## (9) 職員に関する事項

| 役職名  | 氏名    | 就任年月日            | 担当事務  |
|------|-------|------------------|-------|
| 事務局長 | 平林 秀明 | 平成 24 年 6 月 18 日 | 事業の統括 |
| 一般事務 | 横尾 志保 | 平成 8 年 9 月 1 日   | 一般事務  |

## (10) 役員会等に関する事項

### ①理事会

| 開催期日                                | 決議案の内容   | 審議結果                 |
|-------------------------------------|--|----------------------|
| 平成 24 年 5 月 30 日                    | ① 評議員会の招集<br>② 事業報告（案）の決定<br>③ 決算書類（案）の決定<br>④ 企画委員の選任 | 可決<br>可決<br>可決<br>可決 |
| 平成 24 年 6 月 18 日<br>（定款第 37 条 2 項）  | ① 代表理事の選定<br>② 業務執行理事の選定                               | 可決<br>可決             |
| 平成 24 年 10 月 22 日<br>（定款第 37 条 2 項） | ① 調査研究テーマの決定<br>② 助成研究 A 第 2 年度の研究継続可否の決定              | 可決<br>可決             |
| 平成 25 年 1 月 21 日                    | ① 助成研究者の選考及び助成額の決定                                     | 可決                   |

|                  |                         |    |
|------------------|-------------------------|----|
|                  | ② 評議員会の招集及び理事会の年間開催日の予定 | 可決 |
| 平成 25 年 3 月 22 日 | ① 事業計画及び収支予算（案）等の決定     | 可決 |
|                  | ② 選考委員 1 名の補欠選任         | 可決 |
|                  | ③ 投資信託による資金運用（案）の決定     | 可決 |

## ②評議員会

| 開催期日             | 決議案の内容          | 審議結果 |
|------------------|-----------------|------|
| 平成 24 年 6 月 18 日 | ① 決算書類の承認       | 可決   |
|                  | ② 理事 10 名の選任    | 可決   |
|                  | ③ 執行担当理事の報酬の決定  | 可決   |
|                  | ④ 評議員 2 名の選任    | 可決   |
| 平成 25 年 3 月 22 日 | ①事業計画及び収支予算等の承認 | 可決   |

### (11) 許可、認可、承認等に関する事項

該当事項はありません。

### (12) 保有株式の概要

| 項 目           | 内 容                   |
|---------------|-----------------------|
| 株式発行会社名       | セガサミーホールディングス株式会社     |
| 保有株式数         | 普通株式 950,000 株        |
| 発行済総株式数に占める割合 | 0.357%                |
| 株式原始取得日       | 平成 4 年 7 月 21 日       |
| 議決権の行使        | なし（議決権行使には、理事会の承認が必要） |
| 株式発行会社との関係    | なし                    |

## 2 役員等に関する事項

### (1) 理事及び監事

(平成 25 年 3 月 31 日現在)

| 地位          | 氏名    | 任期          | 担当及び重要な兼職の状況        |
|-------------|-------|-------------|---------------------|
| 代表理事<br>理事長 | 中山 晴喜 | 平成 26 年 6 月 | (株) マーベラス AQL 取締役会長 |
| 常務理事 (※)    | 平林 秀明 | 同上          | 当法人事務局長             |

|      |       |             |                       |
|------|-------|-------------|-----------------------|
| 常務理事 | 中村 俊一 | 同上          | (株)アミューズキャピタル代表取締役社長  |
| 理事   | 有澤 誠  | 同上          | 慶應義塾大学名誉教授            |
| 理事   | 稲増 龍夫 | 同上          | 法政大学教授                |
| 理事   | 大熊 健司 | 同上          | ライフイノベーション総合支援機構副理事長  |
| 理事   | 中塚 尚子 | 同上          | 立教大学教授                |
| 理事   | 坂元 章  | 同上          | お茶の水女子大学大学院教授         |
| 理事   | 杉原 厚吉 | 同上          | 明治大学大学院特任教授           |
| 理事   | 出口 弘  | 同上          | 東京工業大学大学院教授           |
| 監事   | 鈴木 正明 | 平成 26 年 6 月 | 公認会計士                 |
| 監事   | 田中 克郎 | 同上          | TMI 総合法律事務所代表パートナー弁護士 |

(注) 1 (※) は常勤であります。

- 2 理事中山晴喜、平林秀明、中村俊一、有澤誠、稲増龍夫、大熊健司、中塚尚子、杉原厚吉及び出口弘の 9 氏は、平成 24 年 6 月 18 日開催の評議員会において選任され就任いたしました。
- 3 理事青木利則及び内藤哲雄氏は、平成 24 年 6 月 18 日付で退任いたしました。

## (2) 評議員

| 地位  | 氏名    | 任期          | 重要な兼職の状況                     |
|-----|-------|-------------|------------------------------|
| 評議員 | 出澤 正徳 | 平成 27 年 6 月 | 電気通信大学名誉教授                   |
| 評議員 | 稲見 昌彦 | 同上          | 慶應義塾大学大学院教授                  |
| 評議員 | 内田 伸子 | 同上          | 筑波大学監事                       |
| 評議員 | 小野 忠彦 | 同上          | (株)TV・ポータル監査役                |
| 評議員 | 残間里江子 | 同上          | (株)キャンディット・コミュニケーションズ代表取締役会長 |
| 評議員 | 長谷川良平 | 同上          | (独)産業技術総合研究所                 |
| 評議員 | 馬場 章  | 同上          | 東京大学大学院教授                    |
| 評議員 | 三浦 宏文 | 同上          | 東京大学名誉教授                     |
| 評議員 | 伊藤 博史 | 平成 28 年 6 月 | (株)アミューズキャピタル専務取締役           |
| 評議員 | 吉富 進  | 同上          | (財)日本宇宙フォーラム常務理事             |

(注) 1 大熊健司及び椎葉忠志の 2 氏は、平成 24 年 6 月 18 日付で辞任いたしました。

- 2 伊藤博及び吉富進の 2 氏は、平成 24 年 6 月 18 日の評議員会において選任され、就任いたしました。

### (3) 役員等の報酬等

| 地位  | 人数 | 報酬等の総額 (千円) |
|-----|----|-------------|
| 理事  | 12 | 10,514      |
| 監事  | 2  | 222         |
| 評議員 | 12 | 487         |
| 合計  | 26 | 11,223      |

- (注) 1 理事の報酬総額には、使用人兼務理事の使用人分給与は含まれておりません。
- 2 理事及び評議員の人数には、期中に退任した理事 2 名及び評議員 2 名を含んでおります。
- 3 評議員の報酬限度額は、定款第 16 条において、総額 120 万円以下と定められております。
- 4 理事及び監事の報酬は、定款第 30 条に基づき、評議員会決議による「評議員及び役員等の報酬等及び費用に関する規程」において定められております。
- 5 当法人は、役員との間に責任限定契約を締結しておりません。

### 3 会計監査人に関する事項

当法人は、会計監査人設置法人に該当しておりません。

### 4 業務の適正を確保するための体制等の整備についての決議の内容の概要

定款第 35 条第 2 項第 5 号に規定していますが、具体的な整備は未了であります。

### 5 その他の法人の状況に関する重要な事項

該当事項はありません。